

2019年4月2日

立教大学国際学術研究交流制度
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	ゾンターク・ミラ
受入学部・研究科・研究所		キリスト教学研究科
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, The Key Institute of Christianity and Cross-cultural Studies / College of Humanities, Department of Chinese Language and Literature, Zhejiang University 所属機関所在国：中国
	氏名	LIANG Hui (梁慧)
招へい期間		2019年3月18日～2019年3月31日(14日間)
研究経費		325,880円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程(毎日)記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定(学部間・研究所等間を含む)の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年3月18日	来日
2019年3月19日	15:30～19:00 公開講演シリーズ(本館1202教室、英語で開催): 中国・清時代後期における聖書の受容と解釈——事例研究を通して 第1部 カール・F.A.ギュツラフ(1803-1851)の事例 第2部 何進善(ホ・ツン=シィン) 牧師(1817-1871)の事例 聴衆: 院生、卒業生、本学教員、他大学教員、一般(12名)
2019年3月24日	横浜キリスト教関係遺跡の見学
2019年3月25日	18:00～20:30 大学院キリスト教学研究科修了祝賀会参加、教員・院生との交わり
2019年3月27日	15:00～17:45 公開ワークショップ(本館1104教室、英語で開催): 近現代東アジアにおけるキリスト教社会主義思想の比較研究 研究発表① 梁慧氏: 中華人民共和国におけるキリスト教社会主義者たちの思想

	<p>研究発表② ゾンターク・ミラ：戦後日本(1945-1975)におけるキリスト教徒による社会主義受容の諸相 聴衆：院生、卒業生、本学教員、他大学教員、一般（10名）</p>
--	--

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

梁慧氏は浙江大学、リージェント・カレッジより Ph.D.を取得し、現在、中華人民共和国教育部浙江大学キリスト教と多文化研究センター特別研究員と兼務して、浙江大学人文学院聖書科において副教授・博士課程指導教授も務める。最近、リージェント・カレッジの中国キリスト教研究講座のディレクターに就任した。

梁慧氏の主な専門分野である聖書解釈学の成果は「中国・清時代後期における聖書の受容と解釈——事例研究を通して」と題した公開講演会シリーズを通して報告いただいた。中国文化は、長い文学的伝統を体現し、多元的な宗教世界の中で作り上げられた古典テキストを豊富に持つ文化である。この中国においてキリスト教の聖書はどのように読まれ、どのように受け取られてきたかを提示された。

その第1部では、ドイツ人のルーテル宣教師であり、のちに独立した宣教活動を始めたカール・F.A.ギュツラフによる聖書注解の考察を通して、西洋の宣教師がどのように聖書を紹介し、どのように聖書を見ていたのかを探る。ギュツラフは19世紀中頃に多くの中国語聖典テキストと対峙しつつ聖書注解を書き、そして植民地時代には聖書受容に関するより包括的な理解を示した。

第2部では、本講義では、長い間その存在を無視されてきた中国初のプロテスタント牧師で神学者のホ・ツン=シンによる新約聖書注解の考察を通して、中国における聖書解釈の初期の事例が明らかにされた。さらにこれを通して、中国人改宗者たちがキリスト教聖書を受容するに当たって、中国文化の中で紡がれてきた解釈学の伝統がどのような影響を与えたのかも明らかにされた。

学期末に行われた公開講演会シリーズのため、参加者数はやや少なめであったが、梁氏の講演に対して質疑応答において参加者の中国キリスト教および中国における聖書解釈に対する強い関心と豊かな知識が現れた。本シリーズはクリスチャン新聞による取材を受けた (<https://クリスチャン新聞.com/?p=23494>)。

公開ワークショップにおいて梁氏のもう一つの研究分野である近現代中国キリスト教史と、受入教員の研究分野である近現代日本キリスト教史において社会主義・共産主義・マルクス主義がどのように受容されたかを比較考察を行った。梁氏の研究発表は、近代の重要な中国人キリスト教知識人たちの神学著作を検証し、反キリスト教運動以降の中国において西洋世界と日本から入ってきたキリスト教社会主義者たちの思想がいかに中国におけるキリスト教信仰の土着化に大きな影響を与えたかを描き出そうとした。さらに、彼らが提示した近代中国における「革命的キリスト教」という神学的構想について、キリスト教と帝国主義という課題への対処について、そしてキリスト教と社会主義あるいは共産主義との関係についても触れた。

受入教員の研究発表は、様々な社会主義と様々なキリスト教との歴史のおよび思想的接点

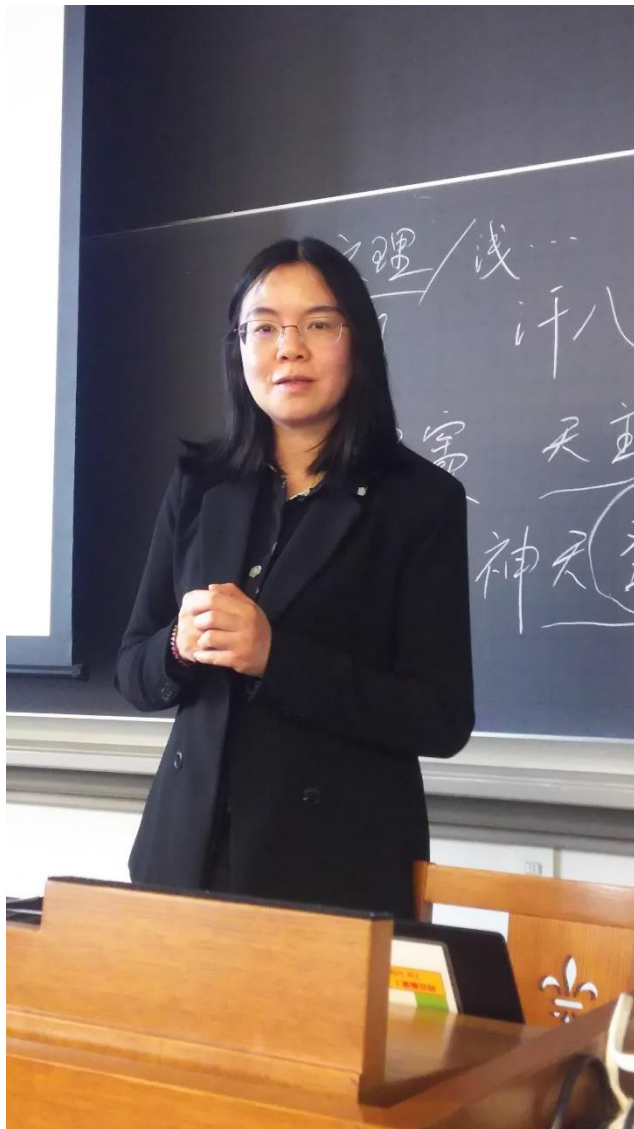
を追い、特に敗戦後 20 年間の日本では両者について主張されてきた親和・疎外論を GHQ 占領期における宗教政策、そして 1960 年代の学生紛争との関係において分析した。

両者の発表後に、予定終了時間を延長しながら、参加者と発表者との充実した質疑応答が行われ、中国以外の社会主義国家におけるキリスト教社会主義的遺産の取り扱いに見られる相違点、「社会主義」定義の幅広さ、キリスト教の「中国化」等々の課題が注目された。

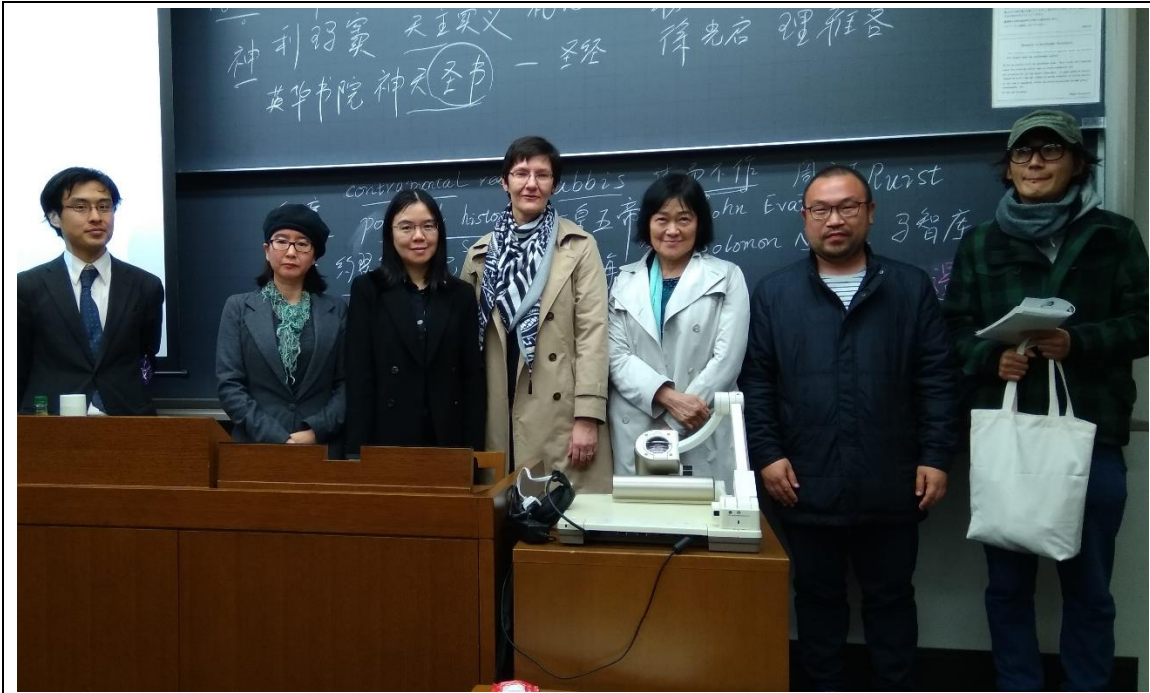
これらの公開プログラム以外に、梁氏は立教大学および他大学の図書館での文献・貴重図書調査を進め、本学大学院キリスト教学研究科の教員と打ち合わせて今後の共同研究の可能性を探り、また他大学（明治学院大学、東京外国語大学、大妻女子大学）での近隣領域の教員へと研究者としてのネットワークを広げた。

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

また、受入教員は、今回のプログラムを通して梁氏との協力関係を深めることができ、2019 年度に改めて浙江大学での講演を行う予定となった。梁氏より両大学院の院生を研究発表者にワークショップを行う提案もあり、検討課題とした。



2019 年 3 月 19 日 公開講演会時の梁氏



2019年3月19日 公開講演会終了後の記念写真（参加は任意）



2019年3月27日 公開ワークショップでの様子